

Tokyo Contemporary Art Award 2020-2022 受賞記念展

2022 年 3 月 19 日（土） ～ 6 月 19 日（日） / 東京都現代美術館 企画展示室 3F

T C A A .

Tokyo
Contemporary
Art Award
2020-2022

東京都とトーキョーアーツアンドスペース（TOKAS）は、2018 年より中堅アーティストを対象に、受賞から複数年にわたる継続的支援によって更なる飛躍を促すことを目的とした現代美術の賞「Tokyo Contemporary Art Award (TCAA)」を実施しています。

この度、第 2 回となる「TCAA 2020-2022」受賞者の藤井光と山城知佳子による、受賞記念展を東京都現代美術館にて開催します。また、展覧会開幕にあわせ、各受賞者の過去作から最新作までを掲載したモノグラフ（日英）を発行します。

■ 展覧会概要 ※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更等が生じる場合があります。

展 覧 会 名 : Tokyo Contemporary Art Award 2020-2022 受賞記念展

英 語 タ イ ト ル : Tokyo Contemporary Art Award 2020-2022 Exhibition

出 展 作 家 : 藤井 光、山城知佳子

会 期 : 2022 年 3 月 19 日（土）～6 月 19 日（日）

会 場 : 東京都現代美術館 企画展示室 3F（東京都江東区三好 4-1-1）

開 館 時 間 : 10:00-18:00

休 館 日 : 月曜日（3 月 21 日は開館）、3 月 22 日

入 場 料 : 無料

主 催 : 東京都、

公益財団法人東京都歴史文化財団 トーキョーアーツアンドスペース・東京都現代美術館

ウ ェ ブ サ イ ト : <https://www.tokyocontemporaryartaward.jp/>

■ 関連イベント

詳細は後日、ウェブサイトにてお知らせします。

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館）

広報担当：市川、武智、水野谷

TEL：03-5245-1142 FAX：03-5245-1154 E-mail：press@tokyoartsandspace.jp

■ 展覧会について

東京都現代美術館で開催する本受賞記念展は、第2回となる「TCAA 2020-2022」受賞者の藤井光と山城知佳子による作品を個展形式で展示します。

藤井は、国内外の歴史的事象について実証的に検証しつつ、常に現在の視点を持ち込むことで同時代の社会課題に対する応答を試みてきました。本展では、戦後の、絵画をめぐる議論をアメリカ占領軍が残した公文書から考察する新作を発表します。

山城は、これまで出身地の沖縄を主題に制作してきました。制作過程で、次作のビジョンが見えるという山城は、沖縄でのリサーチを軸にした新作と、それに繋がる過去作品を展示します。

■ モノグラフについて

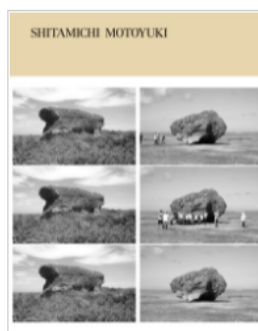
作品画像のほか、作品や制作についての作家の文章、専門家による寄稿を掲載したモノグラフ（日英）を展覧会開幕に合わせ、作家ごとに発行します（非売品）。

なお、モノグラフの一部を2022年3月下旬頃にPDFデータとしてウェブサイトで公開予定です。

■参考：TCAA 2019-2021 モノグラフ ※ウェブサイトにて一部を公開中



風間サチコ
『Magic Mountain』



下道基行
『SHITAMICHI MOTOTYUKI』

■ 同時開催 展覧会（東京都現代美術館）

企画展 「生誕100年 特撮美術監督 井上泰幸展」

「吉阪隆正展」

コレクション展 「MOT コレクション」

※同時開催の展覧会の詳細については東京都現代美術館広報担当までお問い合わせください。

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL：03-5245-1134（直通） FAX：03-5245-1141 E-mail：mot-pr@mot-art.jp

■ 参加作家／略歴／広報用画像



藤井 光 | FUJII Hikaru

【展覧会へよせて 作家コメント】

マイクロフィルムに記録されたアメリカ公文書を顕微鏡で観ている毎日を過ごしています。傷みの激しい1cmほどの単なる長方形なのですが、そこには占領軍が撮影した日本の戦争記録画の写真や接收したそれらをどうすればいいのか判断できない GHQ の姿がぼんやりと見えてきます。TCAA から支援していただく予定だった東南アジアへのリサーチは新型コロナウイルスの流行のため断念しましたが、かつて日本人の画家たちによって描かれた戦場のアジアを旅しています。

1976 年東京都生まれ。東京都を拠点に活動。

紛争や事故などの厄災に起因する、あるいはそれにより顕在化した社会構造の不条理を主題に映像インスタレーションを制作する。藤井が設定した、史実にもとづいた出来事の再演や実際の議論の場をととして、その主題が我々の日常に潜む諸問題と地続きであることを示す。

近年の主な展覧会等に、個展「特別企画 藤井光 爆撃の記録」(原爆の図丸木美術館、埼玉、2021)、「3.11 とアーティスト：10 年目の想像」(水戸芸術館現代美術ギャラリー、2021)、「もつれるものたち」(東京都現代美術館、2020)、個展「核と物」(KADIST、パリ、2019)、「あいちトリエンナーレ 2019：情の時代」(名古屋市美術館)、個展「第一の事実」(ISCP、ニューヨーク、2018)、「カタストロフと美術のちから」(森美術館、東京、2018) など。

■ 参考画像



1. 《解剖学教室》「もつれるものたち」展示風景、東京都現代美術館、2020



2. 《核と物》2019
写真：椎木静寧

■ 参加作家／略歴／広報用画像



©Ryudai Takano

山城知佳子 | YAMASHIRO Chikako

【展覧会へよせて 作家コメント】

小さな命を授かり見つめるだけで過ぎてゆく時間をコロナ禍で過ごし、TCAA受賞で支援されるはずの海外リサーチは行えなかった。しかし私にとって移動せず、同じ場所に居続けることがこれまで以上に重要で至極必要な時間であった。自分が変容し流動する状態をじっくり味わうことが出来たことは幸運だった。今年から移動が多くなり、世界を認知するフレームがこれまでと違ってきていることに気づいている。新たに構成され生成する世界を敏感に感受し、人間が変わっていくことを恐れずひとつひとつを未来に繋げて選択できるように思索したい。

1976 年沖縄県生まれ。

出身地の沖縄を舞台に映像や写真を制作。地理的要因により独自の歴史や文化を持つ沖縄の、戦争の継承や戦後の政治的構造について、時には自身も被写体となり、肉体や声など、身体を通じて問題提起する。また、物語性を取り入れることで新たな視座で沖縄を捉え、壮大さと普遍性を獲得している。

近年の主な展覧会等に、「山城知佳子 リフレーミング」（東京都写真美術館、2021）、「話しているのは誰？現代美術に潜む文学」（国立新美術館、東京、2019）、「京都国際舞台芸術祭」展示「土の人」、パフォーマンス《あなたをくぐり抜けて—海底でなびく 土底でひびく あなたのカラダをくぐり抜けて—》（京都芸術センター、2018）、個展「Shapeshifter」（White Rainbow、ロンドン、2018）など。



3. 《肉屋の女》2012 年版、3チャンネル・ビデオ・インスタレーション

© Chikako Yamashiro, Courtesy of Yumiko Chiba Associates



4. 《チンピン・ウェスタン 家族の表象》2019、シングル・チャンネル・ビデオ&サウンド・インスタレーション

© Chikako Yamashiro, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

■ Tokyo Contemporary Art Award (TCAA) について

Tokyo Contemporary Art Award (TCAA) は、2018 年に東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペースによって創設された、海外での展開も含め、更なる飛躍とポテンシャルが期待できる国内の中堅アーティストを対象とした現代美術の賞です。

アーティストのキャリアにとって最適な時期に最善の支援内容を提供する必要性を重視し、受賞者の選考は、選考委員によるアーティストのリサーチやスタジオ訪問により、制作の背景や作品表現、キャリアステージへの理解を深めた上で行われます。

受賞者に対しては、海外での活動支援のほか、東京都現代美術館での展覧会およびモノグラフ（日英）の作成など、複数年に渡る継続的な支援を行います。

【受賞者】

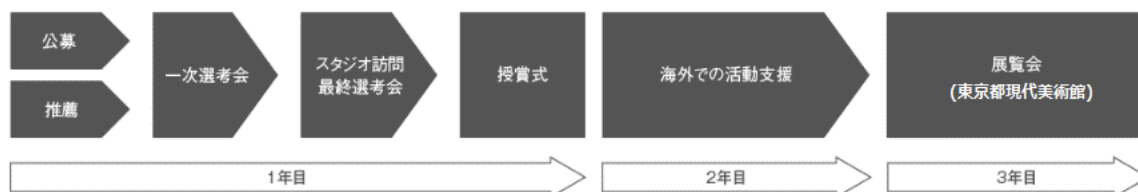
- 第1回 TCAA2019-2021 風間サチコ / 下道基行
 第2回 TCAA2020-2022 藤井 光 / 山城知佳子
 第3回 TCAA2021-2023 志賀理江子 / 竹内公太

■ TCAA 2020-2022 について

【支援内容】

- 1) 賞金 300 万円
- 2) 海外での制作活動支援上限 100 万円（旅費、滞在費、調査制作費等）
- 3) 展覧会実施（東京都現代美術館での展示）
- 4) モノグラフ（作品集）の作成（上記3）の展示にあわせて制作）

【スケジュール】



【選考委員 ※肩書は2019年選考会実施当時のもの】

- 神谷幸江（ジャパン・ソサエティー、ニューヨーク ギャラリー・ディレクター）
 住友文彦（アーツ前橋 館長／東京藝術大学大学院 准教授）
 ドリュン・チョン（M+ 副館長兼チーフ・キュレーター）
 マリア・リンド（キュレーター、ライター、エドゥケーター）
 キャロル・インハ・ルー（北京中間美術館 ディレクター）
 近藤由紀（トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター
 （公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館トーキョーアーツアンドスペース事業課長）